

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1276800081		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム だるまさん		
所在地	千葉県長生郡長生村宮成3496 (電話) 0475(30)0123		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月21日

【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	12.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 ~ 60,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	650 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 1,850円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長生八積医院	長生診療所	古山歯科医院
---------	--------	-------	--------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな緑に囲まれた環境の中、「グループホームだるまさん」がある。施設は、全面バリアフリーとなっており、共有空間は十分な広さが確保されていると共に、高い天井や天窓等により明るく開放的な設計となっている。施設周辺は交通量が少なく、散歩を兼ねて買い物や公園に出掛けられる等、環境に恵まれている。定期的な行事やボランティアの訪問等が実施され、地域の方々も施設に集まり、交流が図られており、地域に根ざした取り組みがなされている。施設長がグループホーム連絡会の役員・キャラバンメイトの講師・地域の介護保険運営協議会の委員等、様々な分野に活動的であり、地域や同業者と密に情報交換を行い、施設サービスの質の向上や協力体制の充実化が図られている。人材が安定しており、職員同士のコミュニケーションや信頼感が厚く、意欲的に業務に臨んでいる。職員全員が、家庭的な雰囲気作りに努め、入居者と職員が共に支えあう関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価にて、緊急・災害時の近隣との協力体制について改善課題が挙がった。評価結果公表後、近隣に呼びかけを行い、地域全体で自主防災組織を立ち上げ、災害時の体制作りを行なった。今後、地域の協力のもと、災害拠点として備蓄倉庫の設置等を計画している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票においては、職員全員で話し合いの上、管理者が作成している。職員全員が評価の意義を理解しており、サービスの質の向上に対し、意欲的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員協議会会長、介護保険運営協議会委員長、老人クラブ会長、地域民生委員、自治会長、職員を構成員として、6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、写真を用いた活動報告や協力の呼びかけ等を行ない、施設理解の促進を図っていると共に、認知症についての講習を行い、認知症に対する理解も深めている。できるだけ多くの方々に参加してもらえるよう、参加しやすい雰囲気作りの工夫に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱や苦情相談窓口が設置されていると共に、家族の面会時に意見や要望の確認を行なっている。定期的に家族会が開催され、意見や要望の把握に努めている。挙がった意見をきちんと受け止め、事業計画へ反映させている。要望においては、申し送り等にて周知徹底に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	納涼祭や餅つき大会等の施設行事には、地域の方々を招待し、毎年多くの人に参加して頂いている。地域の中学生の職場体験を受け入れており、世代交流の機会となっている。地域の行事やゴミ拾い等に参加し、地域との交流を積極的に行っている。また、年4回発行される季刊誌「だるまさんだより」を地域に配布し、施設の地域理解を深めている。その他にも、ボランティアの方々の慰問や介護教室の実施等、様々な活動を通して地域との交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を掲げると共に、入居者の尊厳の尊重・地域との交流・家族との繋がりに寄り添った介護の提供を主眼とする事業所独自の理念を掲げている。理念を作成する際に、職員全員で検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営推進会議にて理念を説明し、地域や家族へ周知を図っている。また、職員に対しては、理念を事業所内に掲示しており、研修や会議にて理念の確認を行なっている。職員全員が理念を理解し、入居者本位のサービス提供を心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭や餅つき大会等の施設行事には、地域の方々を招待し、毎年多くの人に参加して頂いている。地域の中学生の職場体験を受け入れており、世代交流の機会となっている。地域の行事やゴミ拾い等に参加し、地域との交流を積極的に行っている。また、年4回発行される季刊誌「だるまさんだより」を地域に配布し、施設の地域理解を深めている。その他にも、ボランティアの方々の慰問や介護教室の実施等、様々な活動を通して地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票においては、職員全員で話し合いの上、管理者が作成している。職員全員が評価の意義を理解しており、サービスの質の向上に対し、意欲的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員協議会会長、介護保険運営協議会委員長、老人クラブ会長、地域民生委員、自治会長、職員を構成員として、6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、写真を用いた活動報告や協力の呼びかけ等を行ない、施設理解の促進を図っていると共に、認知症についての講習を行い、認知症に対する理解も深めている。できるだけ多くの方々に参加してもらえるよう、参加しやすい雰囲気作りの工夫に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が地域の介護保険運営協議会の委員及び、グループホーム連絡会の世話人を務めており、施設長を中心に、市町村との連絡を密に行なっている。また、日常業務において、市町村に相談する等の関係も築かれており、地域包括支援センターの職員と行事での交流や相談等の連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や手紙にて、入居者の生活状況や金銭管理等を報告している。年4回発行している季刊誌「だるまさんだより」等を通じて、入居者の様子をより詳細に報告がなされている。また、生活に変化があった時や必要時に電話にて報告を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口が設置されていると共に、家族の面会時に意見や要望の確認を行なっている。定期的に家族会が開催され、意見や要望の把握に努めている。挙がった意見をきちんと受け止め、事業計画へ反映させている。要望においては、申し送り等にて周知徹底に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在の所、大きな人材の変化はなく、安定している。ユニット間での異動を行なう事もあるが、日頃からユニット間の交流があり、異動によるダメージの軽減に配慮している。季刊誌「だるまさんだより」にて、職員紹介を行い、家族や地域の方々に紹介を行なっている。入職があった際には、慣れた職員と一緒に業務を行いながら時間を掛けて、入居者と馴染みの関係が築けるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要に応じて参加をしていると共に、地域のグループホーム連絡会にて開かれる勉強会へ積極的に参加している。内部研修においては、定期的開催し、職員の質の向上に努めている。施設では、「認知症ケア専門士」や「介護福祉士」の受験を勧めると共に、年2回の施設長面談にて、相談や人事考課を行い、職員のストレス軽減や適切な育成が図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加しており、勉強会や情報交換が行なわれている。他の施設と施設行事へ相互に招待し合う関係作りがなされており、職員や入居者同士の交流の機会が設けられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学を随時受け付けていると共に、希望に応じて体験入居を実施し、施設の雰囲気や方針を理解してもらったからの入居となっている。入居後は、本人の生活歴に合わせた支援を行い、できるだけ早く施設に馴染んでもらえるよう努めている。また、入居者の希望や状況に応じて一時帰宅や家族の宿泊が可能となっており、住み替えによる不安の軽減に取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者から生活の知恵や人生経験を学んでいると共に、入居者の笑顔や労いの言葉に癒しを得ており、共に支えあう関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、本人や家族から意向や生活歴を聴取し、記録している。入居後は、生活記録や申し送りノートにて入居者の意向を把握し、職員全員で情報を共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の希望を踏まえた上で、会議等で話し合いを行ない、職員全員の意見をまとめ、介護計画を作成している。計画作成後は家族に説明し、了承を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に評価を行っており、3～4ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化があった場合や必要と判断された場合はその都度介護計画の見直しを行なっている。日頃から本人・家族の希望を確認し、生活記録・申し送り・職員会議での検討内容をまとめ、介護計画を作成している。計画作成後は家族に説明し、了承を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの店や場所等、入居者の希望に応じて外出の付き添い支援を行なっている。併設のデイサービスとの連携・交流が行われており、合同行事や看護師との連携等、入居者の希望や状況に合わせた柔軟なサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の協力医療機関を設けているが、希望のかかりつけ医を中心に受診支援を行なっている。通院においては、希望に応じて付き添いを行なっている。必要に応じて往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。グループホームと併設デイサービスの看護師職員が連携し、健康管理を行なうと共に、24時間連絡が取れるよう体制作りがなされている。手洗い・うがいの励行等にて、感染症・食中毒の予防に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書にて、終末期における指針や対応について明記し、家族への説明を行っている。終末期においては、家族や医師と密に相談を行い、本人・家族の意向に添った支援ができるよう努めている。緊急時に備え、救急救命講習に参加し、対応方法を学ぶと共に、マニュアルの整備も行っている。また、看護師職員と24時間連絡が取れる体制となっており、緊急時の対策を講じている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類においては、事務所にて保管し、個人情報の保護に努めている。リビングからトイレ内が見えないようカーテンを設置する等、プライバシーの配慮もなされている。接遇研修に参加し、その人に合った言葉遣いを周知・指導しており、入居者の尊厳を尊重したサービス提供を行なっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課等定めておらず、入居者の自由な生活を支援している。入居者の希望に合わせて、散歩や外出を実施する等、柔軟な支援が行われている。また、施設の手厚い支援により状態が改善し、在宅復帰した実績もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて準備や片付け等共同で行っている。平日の昼食は併設サービスにて調理・献立作りが行なわれているが、その他の食事においては、入居者の希望や嗜好に合わせて献立を決めている。また、定期的に外食会を実施すると共に、施設内の菜園で取れた食材を調理し、入居者に食の楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴においては、本人の希望や状況に応じて時間や回数等、柔軟に支援している。エアコン、ハロゲンヒーター、脱衣所のベンチ等を活用し、快適な入浴を支援している。入浴拒否が無いよう、声掛けのタイミングや入浴剤の使用等、様々な工夫がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれが家事等を担当し、役割・仕事を担っており、いきいきとした生活を送っている。入居者は、体操やレクリエーションに自由に参加していると共に、畑仕事や読書等の趣味活動を通じて、充実した毎日を送っている。また、定期的にボランティアの方々の慰問や行事が実施され、入居者の楽しみを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から散歩を兼ねて近所の公園や野菜の直売所等に出かけている。また、入居者の希望に応じてドライブや買い物等の支援を行い、外へ出る機会を設けている。定期的に行事を企画・実施し、戸外での楽しみを広げている。福祉車両の活用により、遠出や大人数での外出が可能となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。階段に設置されたセンサーにて入居者の行動の把握がなされている。入居者が外に出た際は、無理に引き止めず、見守りや声掛けにて対応している。また、マニュアルの整備や近隣への協力の呼びかけにより、緊急時の対策も講じられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	煙探知機・通報器・避難用の階段等が設置されていると共に、災害時・緊急時のマニュアルが整備されている。地域の消防署の協力のもと、年2回の消防・避難訓練が実施されている。前回評価の反省を踏まえ、近隣に呼びかけを行い、地域住民42戸による自主防災組織を立ち上げ、職員と共に、災害時に向けた訓練の実施などにより体制・組織作りを行なった。今後、行政の協力のもと、災害拠点として備蓄倉庫の設置等を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に応じた食事提供がなされていると共に、食事量の記録を行なっている。食事量が不足している場合には、本人の好物や摂取しやすい物を提供し、必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、テーブルやソファが置かれており、畳スペースが設けられ、季節に合わせコタツが設置されており、入居者が自由にくつろぐ事ができる環境作りがなされている。高い天井や天窓等により明るく開放的な設計となっている。エアコンや加湿器の活用により適切な温度・湿度が保たれている。共有空間には、写真の掲示や入居者と職員が共同で季節に合わせた飾り付けを行い、楽しみを共有している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて馴染みの物を持ち込むことが可能となっており、入居者が居心地良く生活ができるよう配慮している。各居室にナースコールが設置され、入居者が安心して生活できるよう配慮していると共に、エアコンの設置により、適切な空調管理がなされている。また、洗面台や電気スタンドが設置され、利便性にも富んでいる。		